

渋川市 20 周年記念事業

第 49 回 県 民 芸 術 祭 参 加 事 業 ・ 県 民 音 楽 の ひ ろ ば

群響渋川ニューイヤー コンサート



指揮
出口 大地 Daichi Deguchi

© hiro.pberg_berlin

新年の幕開けを
華やかなクラシックで！



サクソフォン
上野 耕平* Kohei Ueno

© Yuji Ueno

2026 **1.12** (月・祝)

渋川市民会館 大ホール

開演／14:00 (開場 13:15)

PROGRAM

ムソルグスキー (リムスキー＝コルサコフ編) / 交響詩《禿山の一夜》
イベール / アルト・サクソフォンと 11 の楽器のための室内小協奏曲*

ミヨー / スカラムーシュ*

ムソルグスキー (ラヴェル編) / 組曲《展覧会の絵》

前売券発売日

◎渋川市民会館



会館 (ホームページ内)
オンラインチケット

11月8日 (土)

発売初日は、9:00から
窓口発売
(電話予約は13:00から)

◎ローソンチケット

<https://l-tike.com/>
(Lコード: 35922)

全席指定

※未就学児の入場はご遠慮願います。

一般

高校生以下

2,200円
(当日券 2,500円)

1,000円
(当日券 1,300円)



主催：群馬県・(公財)群馬県教育文化事業団・渋川市・(公財)渋川市まちづくり財団

後援：群馬県教育委員会・第 49 回県民芸術祭運営委員会・渋川市教育委員会・渋川市文化協会

お問合わせ：渋川市民会館 0279-24-2261

群響渋川ニューイヤーコンサート



指揮

出口 大地

Daichi Deguchi

©hiro.pberg_berlin

第 17 回ハチャトゥリアン国際コンクール指揮部門にて日本人初の優勝。クーセヴィツキー国際指揮者コンクール最高位及びオーケストラ特別賞。2021 年にはベルリン放送交響楽団の公演にてヴラディーミル・ユロフスキ氏のアシスタントを務める。

ベルリン・コンツェルトハウス管弦楽団、アルメニア国立交響楽団等の指揮を経て、2022 年 7 月、東京フィルハーモニー交響楽団定期演奏会にて日本デビューを飾る。その後京都市響、読売日本響、仙台フィル、日本センチュリー響、群馬響、神戸室内管、新日本フィル、東京都響、兵庫芸術文化センター管、大阪フィル、東京響、神奈川フィル、大阪響と立て続けに共演し、今後も日本各地のオーケストラへのデビューが決定している。2024 年 9 月からの 1 年間、リエージュ王立フィルハーモニー管弦楽団のアシスタントコンダクターに選任。

大阪府豊中市生まれ。関西学院大学法学部卒業後、東京音楽大学作曲指揮専攻（指揮）卒業。2023 年 3 月ハンス・アイスラー音楽大学ベルリンオーケストラ指揮科修士課程修了。指揮を広上淳一、田代俊文、三河正典、下野竜也、クリスティアン・エーヴァルト、オペラ指揮をハンス・ディーター・パウムの各氏に師事。またネーメ、パーヴォ、クリスティアン・ヤルヴィ、ドナルド・ラニクルズ、ヨハネス・シュレーフリ、井上道義、沼尻竜典各氏らのマスタークラスにオーディションを経て招待され、薫陶を受ける。

第 33 回（2025 年度）渡邊曉雄音楽基金 音楽賞受賞



サクソフォン

上野 耕平

Kohei Ueno

©Yuji Ueno

茨城県東海村出身。8 歳から吹奏楽部でサクソフォンを始め、東京藝術大学器楽科を卒業。在学中からプロとしてキャリアを積み、鮮烈な CD デビューを果たす。第 28 回日本管打楽器コンクールサクソフォン部門第 1 位・特別大賞（史上最年少）。2014 年第 6 回アドルフ・サックス国際コンクール第 2 位。現地メディアを通じて日本でも話題になる。2017 年度第 28 回出光音楽賞受賞。2018 年第 9 回岩谷時子賞 奨励賞受賞。現在、国内若手アーティストの中でもトップの位置をしめ、ソリストとして、NHK 交響楽団、読売日本交響楽団、東京都交響楽団他、国内のほとんどのオーケストラと共演。デビュー以来、常に新たなプログラムにも挑戦し、サクソフォンの可能性を最大限に伝えている。自身の活動と並行してサクソフォン四重奏「The Rev Saxophone Quartet」、吹奏楽団「ぱんだウインドオーケストラ」としても精力的に活動し、クラシックと吹奏楽を両軸に、上野耕平ワールドを築き上げてきた。NHK-FM「×（かける）クラシック」の司会、テレビ「題名のない音楽会」「妄想トレイン」などメディアとの相性も良い。また、音楽以外にも鉄道と車をこよなく愛し、深く追求し続けている。2025 年 4 月 16 日に 6 枚目のソロアルバム『eclogue』をリリース。

群馬交響楽団

Gunma Symphony Orchestra

1945 年戦後の荒廃の中で文化を通した復興を目指して創立、1955 年「群響」をモデルに制作された映画「ここに泉あり」が公開され、全国的に注目を集めた。1947 年から始めた移動音楽教室は、2023 年度までに延べ 650 万人を超える児童・生徒が鑑賞した。1994 年に「プラハの春国際音楽祭」、「ウィーン芸術週間」から同時に招待を受け 4 カ国を巡る海外公演を実現。

群馬交響楽団は、定期演奏会、移動音楽教室をはじめ幅広い音楽活動を展開し、群馬県の文化の象徴として県民から幅広く支持されている。

また 2019 年 9 月開館の「高崎芸術劇場」に活動拠点を移し、飯森範親常任指揮者のもと、さらなる演奏活動の飛躍・向上を目指している。定期演奏会は 2024 年 7 月に第 600 回に達し、2025 年に創立 80 周年を迎える。

